ISSN 1882-4900
島根大学附属図書館報：淞雲　第8号　平成20年1月
Shimane University Library Bulletin : Shō Un　No.8,　January 2008

淞雲

第8号

●巻頭言
We Will Rock You!　平川正人　・・・・・・・・・・・・・・・・2

● TOPICS
「国立大学図書館協会賞」を受賞　・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

● Welcome to Library
新規導入データベース　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
教員寄贈図書　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
学生選書　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

■特集１　学術情報リポジトリ
島根大学学術情報リポジトリSWANの誕生　中井陽子／昌子喜信　・・10

■特集２　電子ジャーナル
島根大学の電子ジャーナル　加本純夫　・・・・・・・・・・・・・・18

● Event & News　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27

巻頭言

We Will Rock You!

附属図書館長　　平川　正人
（総合理工学部教授）

「図書館はとてもしんとしていた。本が音を全部吸いとってしまうのだ」と村上春樹氏は「カンガルー日和」の中で表現しましたが，図書館といえば，そんな静的な印象を強く持っている人も少なくないかもしれません。単に図書を整理して配架しておく ― それは遠い昔の話になりつつあります。附属図書館では，皆さんが思っている以上の様々な取り組みを行なっています。この機会に合わせて，その一端を紹介したいと思います。

本学の附属図書館では，本館と医学分館を合わせた約 87 万冊の蔵書が，皆さんに手に取ってもらうことを待っています。4年間で全蔵書を読破しようとすれば，毎日 590 冊の割合になります。「興味ある分野の図書は多くないよ」とおっしゃるでしょうか。今年 3 月から，島根県内にある大学と高専ならびに公立図書館の蔵書を web 上で横断的に検索することができるようになっています。しかも，現在のところ島根県立図書館および出雲市立図書館に限られますが，そこに所蔵されている図書を附属図書館のカウンターで受け取ることもできます。将来的には，県内の図書館にある図書全てを対象に，同様のサービスを提供するべく準備を進めています。図書は，所有する，置いておくだけでは意味はなく，「使ってなんぼ」といえます。

役目を終えた図書を再活用していただくための「島根大学図書館蔵書リユース市」も，この考え方にのった活動であり，一般市民を含めた多くの方々に来場いただいています。また，そもそも取り揃えられる図書が利用者の興味対象としてマッチングしていなければ，「使ってなんぼ」といっても絵空事。学生の皆さんに図書館備え付けの図書を選んでもらう「学生選書エントリー」企画を今年も先日開催しました。該当する図書には学生選書を示すシールが貼られています。見つけたら，ハッピーかも。是非，手に取ってみてください。次の機会には，あなた自身の参加を待っています。

一方，興味ある図書が所蔵されていたとしても，それが必要なときに利用できなければ価値は半減します。「使えてなんぼ」です。残念ながら冊子体の図書にあっては，誰かによって借り出されている場合には，返却されるまで待たざるを得ません。いらいらしながら待つことになります。これに対して電子媒体による資料提供，いわゆる電子ジャーナルが，特に学術研究資料（論文）については主流になってきています。ネットワークに接続されたコンピュータがあれば，24時間いつでも利用でき，他の誰かが閲覧しているかどうかは問題になりません。また，出版物配送による時間的遅延も発生しません。本学にあっても，学術研究資料については電子ジャーナルを中心に整備を進めています。学部生でも，時には最先端の活動を覗いてみませんか。講義室で会う先生の名前も，きっと見つかりますよ。

「使えてなんぼ」の解釈は，図書を入手できるかどうかといったことに留まりません。落ち着いて本を読めるような，あるいは授業の合間にホッと一息つけるような環境が整っていることも重要と考えています。ジュンク堂書店の合言葉は「図書館よりも図書館らしい」ですが，その先をいくような展開が求められているといえます。

まずは図書館の書棚から本を一冊取り出してみてください。専門書であれ，文芸書であれ，そこに人類の英知を見て取ることができるでしょう。そして，皆さんの探究心や好奇心をかき立てる一助になること，間違いありません。もっと使い勝手・居心地のよい空間に附属図書館を育てること，いろいろな仕掛けを用意して皆さんの知的探究心・好奇心に火をつけること…

そんなことを目指していきたいと思っています。

We Are the Champions!

TOPICS

「国立大学図書館協会賞」を受賞

島根大学附属図書館では法人化への移行を契機に，所蔵する貴重資料群をテーマ別に分類，整理し，さらに評価や電子化等を行い，平成17年度に次のような展示会，講演会及びシンポジウムを島根大学で開催しました。展示資料は本学所蔵資料のほか，テーマに関連する多くの資料を地域及び全国の所蔵機関から借用し，講演会の講師陣についても学内外から多くの協力を得ました。

(1) 島根にもたらされた華岡流医術
　　－大森文庫から見た江戸後期の診療－
(2) 教育者としての小泉八雲
　　－西田千太郎宛ハーン自筆書簡を中心に－
(3) 絵図の世界
　　－出雲国，隠岐国，桑原文庫の絵図－

平成18年度はこれら講演会やシンポジウムの成果物や電子化された画像コンテンツをベースにした出版プロジェクトを企画し，学内外の研究者や地元出版社の協力を得て，以下の2冊の図書出版を実現しました。

「**絵図の世界：出雲国・隠岐国・桑原文庫の絵図**」島根大学附属図書館編, A4判,フルカラー, 149頁, (有)ワン･ライン, 2006年8月, 2,400円 ISBN：4-948756-33-4

「**教育者ラフカディオ･ハーンの世界：小泉八雲の西田千太郎宛書簡を中心に**」島根大学附属図書館等編，A5判,495頁, (有)ワン･ライン, 2006年11月, 5,800円, ISBN：4-948756-36-9

島根大学附属図書館における貴重書資料展示，講演会・シンポジウムと成果物出版プロジェクトは，平成19年度の国立大学図書館協会賞を受賞しました。国立大学図書館協会賞は，今年で42回目を数える伝統ある賞で，図書館活動および図書館・情報学研究に顕著な業績をあげた個人およびグループに対して贈られます。

受賞理由は，概要以下のとおりです。

・貴重資料展示－講演会に際し，原資料と高精細な電子メデイアの併用展示による展示効果の向上と版下への利用など総合的な計画性
・プロジェクトの各過程でテーマを充実させたことによる展示資料の幅広い収集活動・機関間協力，学内外研究者や民間出版社などとの地域連携
・全館的な協力体制による所蔵貴重資料の電子化による保存，利活用の推進と商業ルートによる図書出版の実現等，先進的な図書館活動

表彰状

島根大学附属図書館
貴重書展示・講演会及び
出版企画ワーキンググループ　殿

貴殿は貴重資料展示・講演会・シンポジウム企画及び成果物編集・出版プロジェクトにおいて地域社会や民間企業との連携をはかり独創的な情報発信活動を展開されましたその図書館活動に関する優れた功績に対し国立大学図書館協会賞を贈りこれを表彰いたします

平成十九年六月二十八日

国立大学図書館協会
会長　西郷和彦

［記念の賞状・メダル］

なお，「教育者ラフカディオ・ハーンの世界」は年間出版点数約60,000冊の約16%程度が推薦される平成18年度日本図書館協会の「選定図書」にも選ばれ，一定の評価を得ています。

平成19年度は，引き続き「華岡流医術の世界」の平成20年2月発行を目指して医学分館を中心に編集作業を行っています。

また，プロジェクトで構築されたノウ・ハウや人的ネットワークを維持するため，図書館内に学内教員や地域研究者をメンバーとした『附属図書館研究開発室』を平成18年12月に設置し，地域の貴重資料を含めた調査や電子化・公開支援など新たな課題に対応できる体制を整備しました。

＜受賞に関するマスコミ各社の報道＞

・山陰中央新報，情報発信活動で島大図書館「国立大協会賞」を受賞[2007.8.24付,26面]
・NHKテレビ「情報満開！しまねっと」,「ニュース845」特集「島大図書館が協会賞を受賞」2007.9.14, 18:10～；20:45～, 松江放送局放映
・NHKラジオ第一放送「おはよう中国,今日の話題」2007.9.20, 7:40～, 広島放送局

（図書館専門員　加本純夫）

Welcome to the Library!

新規導入データベースの紹介

データベースを使いこなして差をつけよう!

2007年４月より新たに５つのデータベースが仲間入りしました。新聞記事，法令，百科事典，化学便覧，理科年表など，学生のみなさんが日々の学習に活用できる便利なものばかりです。新聞記事データベースは従来から提供していた「朝日新聞」に加えて，新たに「日経」４紙の記事データベースが加わりました。学生・教職員のみなさま，学習，教育，研究，調査，業務等にどうぞお役立てください。

いずれのデータベースも，図書館ホームページ（http://www.lib.shimane-u.ac.jp/）から次のリンクをたどってアクセスできます。学内からのみ利用できます。

アクセス　図書館ＨＰ　＞　データベース　＞　Webデータベース一覧

●日経テレコン21（新聞・企業情報・国内・日本語）

日経四紙（日本経済新聞，日経産業新聞，日経流通新聞，日経金融新聞）を全文検索できます。リアルタイムなニュース速報をはじめ，過去30年分を蓄積した新聞記事データベース，企業情報，人事情報，株価・債権情報など幅広いビジネス情報を満載しています。学生のみなさんは，就職活動にも活用できます。

項　　目	説　　明
提 供 機 関	日経メディアマーケティング株式会社
概 要・特 徴	・国内最大級のニュース＆データベースサービス ・日経四紙（日本経済新聞，日経産業新聞，日経流通新聞，日経金融新聞）を全文検索可能 ・ニュース速報，新聞記事データベースの他に，企業情報，人事情報，株価・債権情報など幅広いビジネス情報を検索できる ・就職活動にも活用できる
データ収録範囲	・1981.10～その日の朝刊　記事全文（テキストとPDFファイル） ・データの更新頻度：毎日
アクセス方法	学内からのみアクセス可 （図書館HP＞データベース＞Webデータベース一覧＞日経テレコン21）
同時アクセス数	無制限

TOP 画面

検索結果表示画面

●現行法規（D1-Law.com）〈法律・国内・日本語〉

「第一法規法情報総合データベースD1-Law.com」で提供していた「判例大系」，「法律判例文献情報」に，新たに「現行法規」が加わりました。日本の現行法令の全文の閲覧・印刷，ファイルのダウンロードが可能です。法令の改正履歴をたどることができ，改正前の条文，改正後の条文を参照できます。検索した法令に関連する判例や文献情報なども確認でき，法令，判例，文献情報を相互に参照しながら利用できる便利なデータベースです。

項　目	説　明
提 供 機 関	第一法規D1-Law.com
概 要・特 徴	・日本の現行法令の検索システムで，法令の全文の閲覧，ファイルのダウンロードが可能 ・法令の改正履歴をたどることができ，改正前の条文，改正後の条文を参照可能
データ収録範囲	・データの更新頻度：毎月
アクセス方法	学内からのみアクセス可 （図書館HP＞データベース＞Webデータベース一覧＞第一法規法情報総合データベース）
同時アクセス数	20

●理科年表プレミアム〈自然科学一般・国内・日本語〉

理科年表の1925年の創刊号から最新版までのデータを収録しています。キーワード検索で，調べたいデータに即座にアクセスできます。データはダウンロードして表計算ソフトで利用することができます。

項　目	説　明
提 供 機 関	国立天文台
概 要・特 徴	・暦部，天文部などの各部ごとに表のタイトルから探す「目次検索」，50音順の「索引検索」のほか，解説文などのテキストデータから必要な表にアクセスできる全文検索を用意 ・検索した表データは，テキストデータ（CSV形式）でダウンロードし，表計算ソフトで利用することが可能
データ収録範囲	・創刊号（1925年）～最新版 ・データの更新頻度：改訂の都度
アクセス方法	学内からのみアクセス可 （図書館HP＞データベース＞Webデータベース一覧＞理科年表プレミアム）
同時アクセス数	無制限

●化学書資料館〈化学・国内・日本語〉

日本化学会から出版されている定番の『化学便覧』『実験化学講座』『標準化学用語辞典』を横断検索でき，全文情報の閲覧ができるデータベースです。『実験化学講座』は，初版から第５版までの内容を収録しており，キーワード検索で調べたい箇所を即座に全文表示できる便利なツールです。

項　目	説　明
提 供 機 関	日本化学会
概 要・特 徴	・『化学便覧』『実験化学講座』『標準化学用語辞典』の全文情報を収録 ・収録されている情報を横断的に検索し，本文全文の閲覧が可能
データ収録範囲	・化学便覧 基礎編 改訂第５版， 応用化学編 第５版・第６版 ・実験化学講座 初版～第５版 ・標準化学用語辞典 第２版 ・データの更新頻度：改訂の都度
アクセス方法	学内からのみアクセス可 （図書館HP＞データベース＞Webデータベース一覧＞化学書資料館）
同時アクセス数	無制限

●JapanKnowledge（ジャパンナレッジ）〈辞書・国内・日本語〉

小学館『日本大百科全書』をコアにして，各種用語辞典，語学辞典（漢字，英和・和英，英英），人名事典，『会社四季報』，『週刊エコノミスト』等の情報を収録したもので，これらの情報を横断的に一括検索できる機能をもつものです。情報は定期的に更新されるため，最新の情報を得ることができます。きちんと評価された信頼できる情報源ですので，インターネットの検索エンジンを使う前に，まずこのJapanKnowledgeを使ってみましょう。レポート作成にも出典が明記できるので大いに活用してください。

項　　目	説　　明
提 供 機 関	ネットアドバンス（小学館グループ）
概 要・特 徴	・『日本大百科全書（ニッポニカ）』全26巻をはじめとする，出版各社の用語辞典，語学辞典（漢字，英和･和英，英英），人名事典を電子化し，収録したもので，多元的な知識源をWeb上で一括検索できる総合データベース。横断検索と全文閲覧ができる ・レポート・論文作成にはもちろん，日常のちょっとした疑問，就職活動，旅行の下調べなどにも活用できる
データ収録範囲	・日本大百科全書・日本歴史地名体系・現代用語の基礎知識・情報・知識imidas 会社四季報・週刊エコノミスト（前年分～）・東洋文庫 ・データの更新頻度：毎月
アクセス方法	学内からのみアクセス可　　＊ログインの必要はありません （図書館HP＞データベース＞Webデータベース一覧＞JapanKnowledge）
同時アクセス数	4

TOP 画面

検索結果表示画面

（情報サービスグループ　松浦めぐみ）

Welcome to the Library!

本学教員著作等寄贈資料の紹介

島大の先生の書いた本を読もう！

本学教員の先生方の著作を今期も多数ご寄贈いただきました。ご寄贈くださいました先生方に厚く御礼申し上げます。今後とも著作等を刊行の際には，図書館にご寄贈くださいますようお願いいたします。

●自署紹介

加藤克夫・渋谷聡ほか著　**教養のための西洋史入門**

ISBN　978-4-623-04909-7　ミネルヴァ書房　2007.5

1970年代以降，わが国の歴史学は大きく変貌してきた。歴史の分析の対象は，それまでの政治・軍事・外交・経済を中心としたものから人びとの生活のあらゆる分野に拡大して，社会史，あるいは政治文化史が隆盛となった。また，歴史分析の枠組みも国単位からよりグローバルなものに変わってきた。

本書は，こうした近年の歴史学の成果を踏まえ，西洋史を教養として学びたい人のために，古代から21世紀までの欧米史を分かりやすく概説した入門書である。全体の構成は，古代地中海世界／ヨーロッパ中世／同近世／同近現代／アメリカ近現代の5部からなり，各章には「年表」と「概要」，エピソードや特定の問題を詳しく解説した「コラム」を配し，面白く読めるように工夫している。

現在は歴史の転換期にある。将来を展望する上でも，是非一度目を通してもらいたいものである。

（法文学部教授　加藤克夫）

●寄贈図書一覧（平成19年2月～8月受入）

永松正則（法文学部）	アジア太平洋諸国の収用と補償
川久保篤志（法文学部）	戦後日本における柑橘産地の展開と再編
加藤克夫（法文学部） 渋谷　聡（法文学部）	教養のための西洋史入門
福田哲之（教育学部）	上博楚簡研究
竹田健二（教育学部）	古代思想史と郭店楚簡
作野広和（教育学部）	インドの新しい工業化：工業開発の最前線から
加藤寿朗（教育学部）	子どもの社会認識の発達と形成に関する実証的研究
林　弘正（法務研究科）	刑法総論30講
	問題解決への刑事法的アプローチ（児童虐待Ⅱ）
西上一義（名誉教授）	松江春夏秋冬
	続・松江春夏秋冬
	あるボタニスト：絵心の軌跡
木下芳一（内科学2）	消化器疾患エッセンシャルドラッグ123
	これでわかるNERD診療のすべて
佐藤和子（臨床看護学）	脳・神経疾患患者の看護
佐倉伸一（附属病院）	図説超音波ガイド下神経ブロック

Welcome to the Library!

学生選書

君も図書館の本を選ぼう!

図書館では学生や教員のみなさんの学習や教育・研究を支援するために，図書や雑誌のほか，電子ジャーナル，データベース，視聴覚資料などを備え提供していますが，学生のみなさんがもっとも頻繁に利用するのはやはり図書ではないでしょうか。特に次のようなものは，みなさんよく利用されていることと思います。

■一般教養図書

広く教養を養うほか，学習の基礎資料としても役に立つような本はぜひ読んでおきたいものです。文庫・新書類は手軽で読みやすい上，話題性のある内容も多く，様々な分野の情報，知識を得るにはもってこいです。

■授業関連図書

なんといっても基本は授業です。主に教員からの推薦図書やシラバスの指定図書など，授業の理解，レポート作成などに役立つ図書が中心です。

■参考図書

授業やレポート作成，調査，研究などに，辞書，事典，ハンドブック，白書，統計類などは欠かせない資料です。

学生用図書として購入している冊数は右の表のとおりですが，予算の制限もあり決して十分な冊数とは言えません。図書館には古い本が多い，読みたい本がないという声が多く聞かれます。

	本館	医学分館
平成 16 年度	2,739 冊	597 冊
平成 17 年度	4,837 冊	794 冊
平成 18 年度	4,790 冊	1,109 冊

図書館の資料は，そのほとんどが教員または図書館職員によって選定（選書）されています。選書というと楽しそうに聞こえますが，出版情報や利用状況，蔵書構成，学部・学科の研究動向などを把握した上で，膨大な出版物の中から適切な本を選ぶのは簡単なことではありません。さらに，これにより選書された本と利用者が求めている本がいつも一致するとは限りません。

そこで，教員や図書館職員が行う「価値」を主体とした選書とは別に，大多数の利用者である学生のみなさん自身の「要求」をも取り入れた選書をすることで，実際の授業や学習に広く活用してもらえるような図書を整備することにしました。

購入リクエストを実施している図書館は多いですが，一歩進んで学生のみなさんにもっと図書館の資料に興味を持ってもらうため，積極的に選書に参加してもらう次のような企画を実施しています。

●学生選書ツアー

書店へ出向き，学生の目線で授業に必要な本，読んでみたい本，お薦めの本などを選んでもらいます。平成 17 年度から始め，今夏 3 回目のツアーを実施しました。ホームページやポスターで参加者を募集していますが，参加者には本好きの学生さんが多く，いい体験だったとの感想が聞かれます。

■平成 17 年度　　8 月 4 日　　9 名参加　　100 冊選書

初めての試みということもあり，分野が偏ってはいけないと各自担当を決めて選書してもらいました。自分の専門分野でないところにあたった人は苦戦したようです。内容まで吟味してじっくり選んだ人が多く，時間が足りなくて冊数はちょっぴり控えめでした。他の利用者を意識しながら選書するのは大変だったという感想が多く，学生の目線で，授業や実験などに役立ちそうな本が多数揃いました。

■平成18年度　　7月31日　　12名参加　　189冊選書

試験期間にかかってしまったため参加できなかった人がいたことを大変申し訳なく思います。今回は特に分野を決めずに選書してもらったところ，小説を中心に多種多様な本が選ばれました。「う〜ん，今どきの学生さんが読みたい本ってこういうのかぁ」，が一目瞭然の結果となりました。読みたいけど高くて買えなかった本をやっとゲット！という幸福感も味わえたようです。

■平成19年度　　7月6日　　4名参加　　148冊選書

参加者は少なかったのですが，みなさん本好きで，選んだ本を楽しく説明し合いました。図書館蔵書の事前調査が必要との意見がありました。楽しい企画なのになかなか参加者が集まらないのはPR不足でしょうか，学生さんが図書館に興味を持っていないからでしょうか。このツアーに限らず，学生さんに向けてもっと積極的なPRが必要と感じました。

●学生選書エントリー

学生参加の選書企画として平成17年度から「学生選書ツアー」を実施していますが，参加者がごく少人数に限られること，書店に大学生向けの学習書，専門書が少ないこと，選書作業の理解が不充分などの問題もありました。そこで平成19年度は，ツアーとは別に，より多くの学生さんが興味を持ち参加できるような企画にすべく，本館1階に期間限定（6月22日〜7月11日）で学生選書コーナーを設けました。

コーナーには選書の目的や基準を掲示し，選書のためのツール（選書DB，出版冊子，カタログ等）を用意しました。図書館に置いて欲しい本を購入候補としてエントリーするという形で選書してもらい，エントリー用紙とWebからの申込みを受け付けたところ，53冊のエントリーがありました。

ツアーとエントリーで選書された201冊については，そのまますべて購入するのではなく，学生さんといっしょに図書館の蔵書としてふさわしいかを検討し，購入決定まで携わってもらうことにしました。7月11日の選書会では201冊について1点1点内容や価格などについて話し合い，最終的に購入する図書を決定しました。

学生選書ツアーとエントリーにより購入した図書については，図書館ホームページのブログをご覧ください。今年度から，学生選書企画で購入した図書には「学生選書」の赤いシールが貼ってあります。きっと読んでみたくなる本がたくさん見つかるはずです。

学生選書の本は，図書館職員から見ると「う〜ん (-_-;)」と思うものも多いのですが，貸出状況を見ると非常によく借りられており，内容はともかく，何か読みたい，何か見つけたいという意欲や期待が窺えます。学生の図書館離れが問題になっているこの頃ですが，みなさんが学習，研究を進めやすいよう，要求（demand）を充たし，ニーズ（needs）に応えられるような環境を整備する努力を続けています。「学問とは本を読むこと」から始まります。難解なものを読むのも重要ですが，自分が面白いと思うものから始めてもいいでしょう。そこで出会えた1冊の本からステップアップして，図書館に興味を持ち，もっと身近に感じて大いに活用してもらえることを願っています。

（企画・整備グループ　小豆澤悦子）

特集１　学術情報リポジトリ

島根大学学術情報リポジトリSWANの誕生

企画・整備グループ　　中井　陽子
情報サービスグループ　　昌子　喜信

２００７年４月，**島根大学学術情報リポジトリ SWAN**が誕生しました。今や世界の大学や研究機関が競って公開しつつある学術情報リポジトリ ー　このようなシステムを大学が持つことはなぜ必要なのでしょうか。この特集では，学術情報リポジトリとは何なのか？　どういうメリットがあるのか？　また，本学の学術情報リポジトリSWANの特徴や目指すところなどを詳しく解説します。

１　学術情報リポジトリって何だ？？

学術情報リポジトリは，本学の研究者が作成した論文等の研究成果物を学内外に向けて無料で発信するデータベースです。一般的にはInstitutional Repositoryを訳して「**学術機関リポジトリ**」，または単に「**機関リポジトリ**」と呼んでいます。学術機関リポジトリを公開している大学等の研究機関では，それぞれ独自の名称を付けて呼んでいます。本学では「**島根大学学術情報リポジトリ Shimane University Web Archives of kNowledge (SWAN)**」と名づけました。この記事の中では，本学の学術情報リポジトリを指す場合は「SWAN」と表記し，一般的な説明に用いる場合は「学術機関リポジトリ」と表記することにします。

(1)研究成果のショウウィンドウをつくる

学術機関リポジトリは，研究者が生産した学術論文などの研究成果物の一次情報（本文）を，自らが所属する大学や研究機関などが管理するサーバに登録し，発信したり，保存したりするための“電子書庫”のことです。この“電子書庫”に登録された研究成果物は，インターネットで世界中に発信され，GoogleやScirusなどの検索エンジンで検索されますので，論文を必要としている世界中の人たちに論文の存在を知らしめることができるのです。つまり，この“電子書庫”は，研究成果物のショウウィンドウのようなものと言えます。従来のように単に学術雑誌に論文を掲載した場合のみと比較して，学術機関リポジトリにも論文を登録することで，論文の“可視性”を飛躍的に高めることができます。その結果，研究インパクト（影響力）の向上や被引用率の向上が期待できるのです（図１参照）。[注1)]

(2)登録する研究成果物はどんなもの?

学術機関リポジトリに登録される研究成果物は，一般に学術雑誌や紀要に掲載された論文，学位論文，学会等の会議で発表された資料や予稿集・会議録に掲載された論文等です。学術機関リポジトリを運用している大学は，それぞれ独自の登録ポリシーを定めています。本学のSWANは上記のものに加えて，ミュージアム資料や遺跡資料などのコレクション資料を登録することができます。[注2)]

(3)著作権は大丈夫?

学術雑誌や大学紀要に掲載された論文，または掲載予定の論文を学術機関リポジトリに登録するにあたって著作権の問題が気になるところです。出版社や学協会が発行する学術雑誌に投稿された論文は，多くの場合，著作権が出版社等へ譲渡されているからです。しかしながら，欧米の出版社や学協会の実に94％が，著者が所属する機関の学術機関リポジトリへの投稿論文の登録を認めています。[注3)] 国内の出版社や学協会は現在までのところ方針が定まっていない場合が多いのですが，照会すれば許諾を得られることが多い状況であり，今後は世界の趨勢に従って，学術機関リポジトリへ投稿論文の登録を認めるケースが増えてくるものと予想されます。[注4)]

SWANに論文を登録していただくと，公開に

先立って図書館で公開可否を調査の上，公開可能なものを公開しますのでご安心ください。なお，本学が発行する研究紀要については，紀要論文をSWANへ登録することについて，紀要編集委員会から包括的な許諾を得ています。

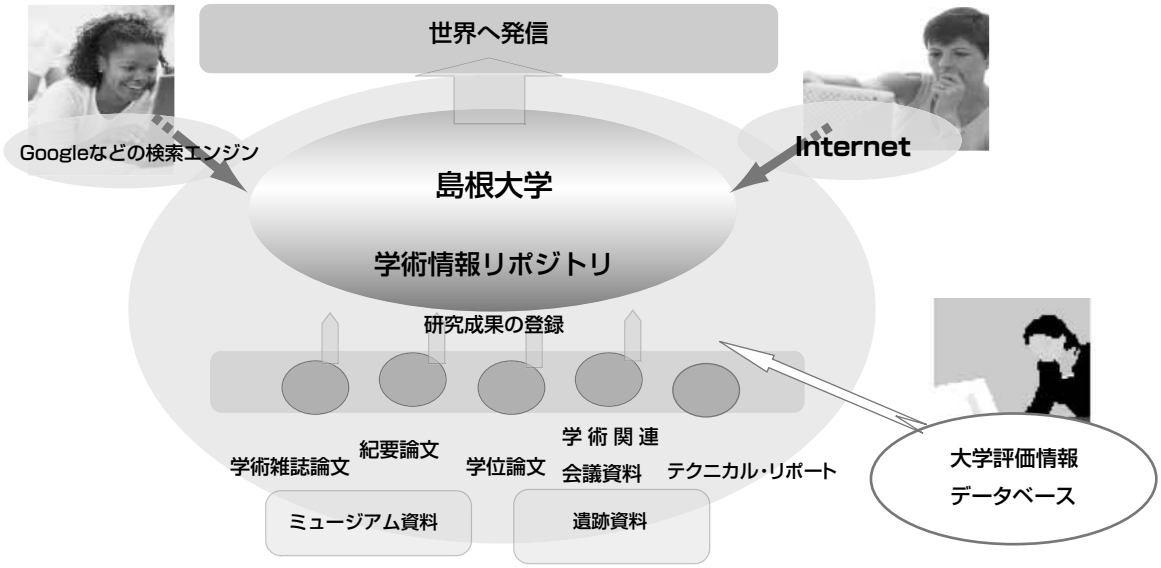


図1　SWAN の概念図

(4) 学術機関リポジトリはなぜ必要なの？？

ここで，学術機関リポジトリはなぜ必要なのかを整理してみましょう。

Point 1　新たな学術コミュニケーションの創出

学術機関リポジトリが出現した背景の一つに，学術雑誌価格の高騰による学術コミュニケーションの不全が顕在化し，大学や研究機関などでは必要な学術雑誌の講読が維持できなくなってきたことがあります。商業出版社に牛耳られた学術コミュニケーションを研究者の手に取り戻して，情報を必要とする人に無料でアクセスを提供しようというオープンアクセス運動の一つとして学術機関リポジトリは位置づけられます。商業出版社による電子ジャーナルを購読できない機関や民間の研究者，貧しい国の研究者など，必要とする人たちに等しく論文を届けるための新たな学術コミュニケーションのしくみの出現です。

Point 2　大学のブランド力向上と説明責任の履行

大学が個性を競い合い，今や大学のブランドで研究費や学生の獲得を競う時代です。特徴ある研究成果を広く国内外に発信することで，大学のブランド力の向上を図ることができます。また，地域社会や産業界などに貢献し社会への説明責任を果たすことができます。

Point 3　研究成果の効果的発信と永続的なアーカイブ

登録された研究成果は，Googleなどのインターネット検索エンジンから検索されますので，研究成果の“可視性”が飛躍的に向上します。さらに，登録された研究成果を永続的に保存活用するためのアーカイブとしての利用ができ，研究成果の散逸を防ぎます。登録された研究成果物のURLは変わることはありません。

2　世界に広がる学術機関リポジトリ

学術機関リポジトリのはしりと言われているのが，ロスアラモス国立研究所にいたポール・ギンズパーグが創設した高エネルギー物理学分野のプレプリントサーバarXivです。プレプリントを交換する慣習がある研究分野では，この他にも類似のアーカイブが誕生しました。これらは，特定の主題領域の論文を集めた「主題リポジトリ」と呼ばれるものです。一般に学術機関リポジトリは，学術雑誌価格の高騰を背景にして2000年前後から高まりだしたオープンアクセス運動の流れのなかで生まれてきています。Registry of Open Access Repositories(ROAR)サイト（http://roar.eprints.org/）によると，2007年10月現在世界中で936の学術機関リポジトリが公開されています。2006年10月には，約750でしたので１年間に200近くの学術機関リポジトリが誕生したことになります。

わが国初の学術機関リポジトリは，2004年に試験公開された千葉大学のCURATORです（正式公開は2005年３月）。国立情報学研究所（NII）の「学術機関リポジトリ構築ソフトウェア実装実験プロジェクト」（国立６大学が参加。2004年６月～2005年３月）を経て，2005年度には，NIIの「次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業」により国立・私立19大学に事業が委託され，さらに2006年度には本学を含む57の国立・私立大学に事業が委託されて学術機関リポジトリの構築が進められました。このように日本においては，NIIの委託事業を中心として学術機関リポジトリの構築が進められています。2007年 10月現在わが国では63 の学術機関リポジトリが公開されています。[注5)]

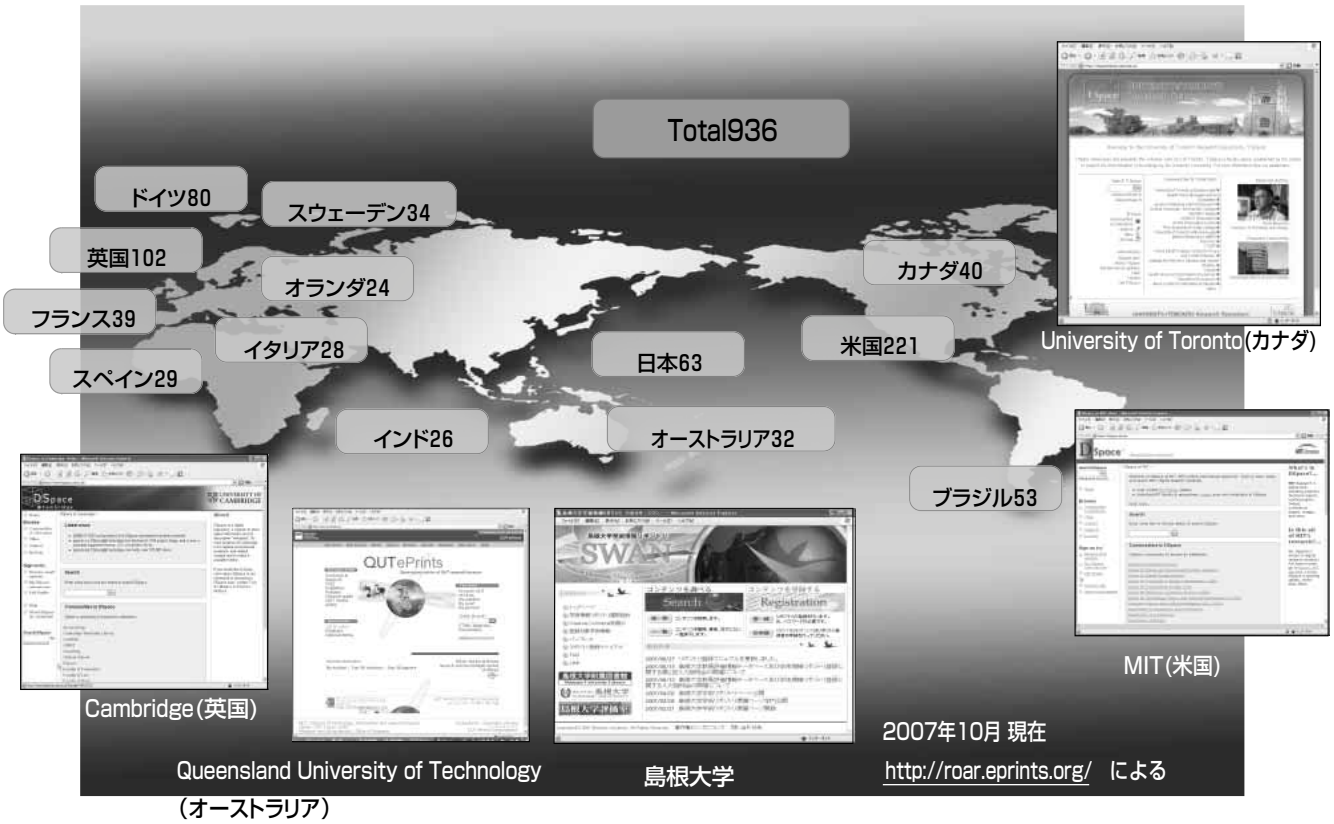


図２　世界の学術機関リポジトリ

3　SWAN の特徴

本学のSWANはいったいどのようなものでしょうか。SWANは，大学評価情報データベースと有機的な連携を図るなど，データ入力の負荷を軽減するための様々な工夫がなされています。それでは，SWANが持つ独自の機能や主な特徴を紹介しましょう。

Point 1　大学評価情報データベース（業績データ）との連携

SWANは，本学の大学評価情報データベースの教員情報入力システムと密接に連携するシステムとして作られています。教員情報（業績データ）入力時に，先にSWANに登録されている研究成果情報を取り込んで入力することができます。学内の共著論文等では，共著者の方は，リポジトリ参照で既にSWANに登録されている論文情報を取り込むことができます（図３参照）。また，先に教員情報入力システムに入力された業績データをSWANに取り込んで入力することもできます（図４参照）。このように，入力されたデータを両システム間で相互に流用して使えるため，同じデータの無駄な二重入力をしなくてすむのです。

図３　大学評価情報データベースとの連携１　★SWAN → 教員業績情報へ

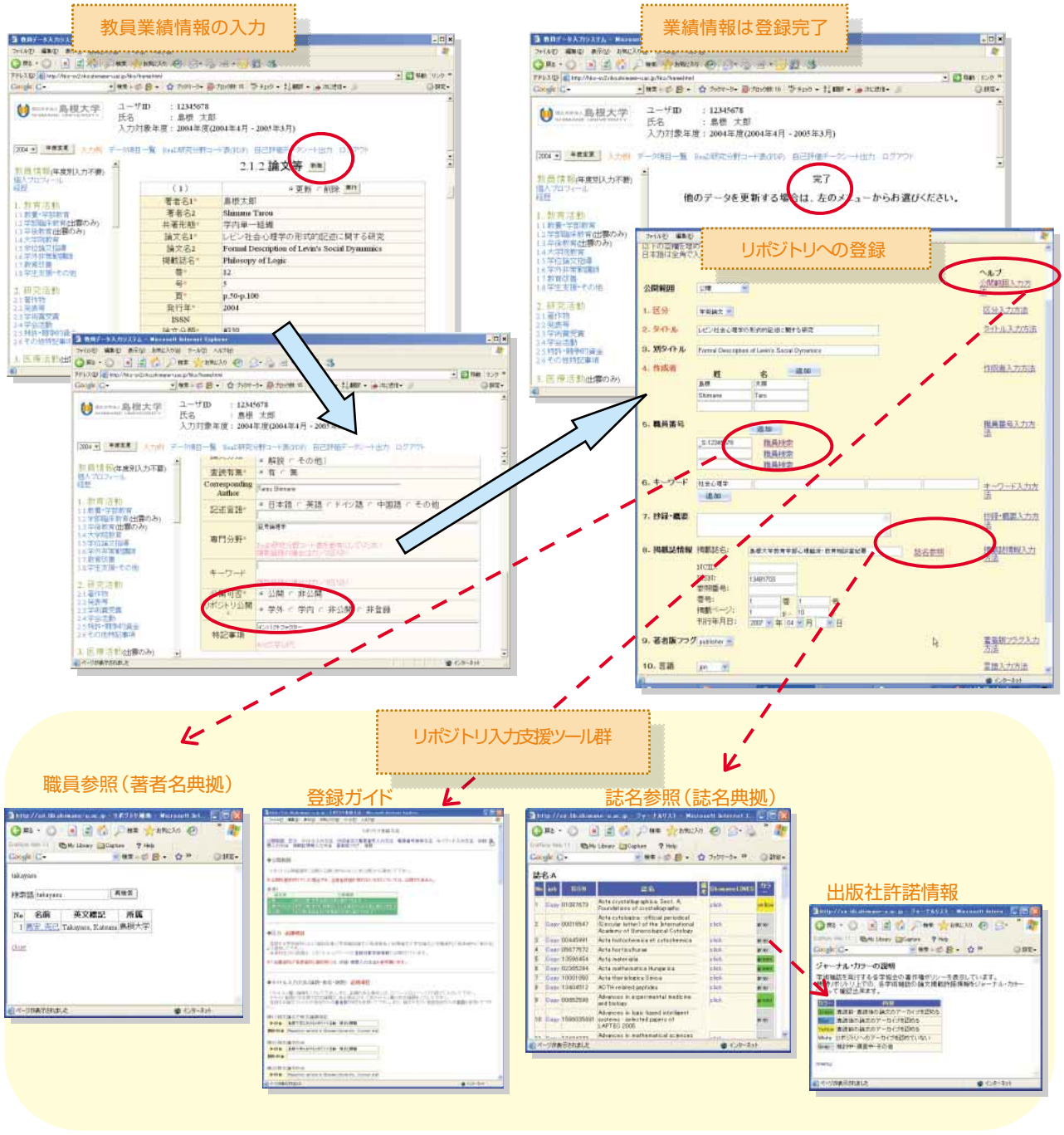


図４　大学評価情報データベースとの連携２　★教員業績情報 → SWANへ

Point 2　公開範囲の選択とアーカイブとしての利用

SWANは論文データの公開範囲を自由に設定することができます。出版社・学協会から許諾が得られない場合でも，学内のみの公開が可能です。また，論文だけでなく，学会や講演会での発表資料なども学内での教育や研究の面で有効に活用できるものもあります。学生の教育に使用する資料など学外に公開する必要のないものもあるでしょう。さらに，学内外に対して非公開とすることもでき，特許に関わる論文などを一定期間非公開とすることもできます。このようにSWANは，大学評価情報データベースに登録された業績データに対応した研究成果情報の一次情報を，公開レベルをきめ細かに設定しつつ永続的に保管するアーカイブとして機能します。登録された研究成果情報のURL（アドレス情報）は永続的なもので，システムの更新などで変更されることはありません。

学外公開	インターネット上に研究成果を公開し，全世界から閲覧可能
学内公開	イントラネット上に研究成果を公開し，学内からのみ閲覧可能
非公開	登録者のみ閲覧可能

Point 3　豊富な入力支援ツール群とジャーナルの許諾情報を搭載

SWANは，データ入力の負荷を軽減するために各種の入力支援ツールを搭載しています（図5参照）。その一つに誌名参照機能があります。現在約1220件の学術雑誌，単行本，会議録の情報を利用できます。誌名，ISSN，ISBNから検索でき，掲載誌情報をコピーすることができるため，入力の手間を省くことができるとともに，誤入力を避けることもできます。この誌名参照により，誌名の形を統一された形に保つことができ，登録データの品質維持にも重要な役割を果たしています（誌名典拠機能）。

さらに，この誌名参照画面でジャーナルごとの学術機関リポジトリへの論文掲載許諾情報をジャーナルカラーで確認することができます（図5参照）。先生方の登録に応じて，誌名の追加や許諾情報の調査を行い，随時情報を更新しています。ご自分の投稿する雑誌のジャーナルカラーをご存知ですか？GreenかBlueジャーナルなら，是非論文を登録ください。

Green	査読前・査読後の論文のアーカイブを認める
Blue	査読後の論文のアーカイブを認める
Yellow	査読前の論文のアーカイブを認める
White	リポジトリへのアーカイブを認めていない
Gray	検討中・調査中・その他

図5　誌名参照画面とジャーナルカラー

4　登録の実際

(1) 登録の流れ

SWANへの登録の実際の流れを見てみましょう。登録の入り口は，SWANから入る場合と大学評価情報データベースから入る場合とがあります。一般的なSWANへの登録の流れは次のフローチャートのとおりです。登録作業の詳細は登録マニュアル（ http://www.lib.shimane-u.ac.jp/menu.asp?mode=l&id=1228）をご参照ください。

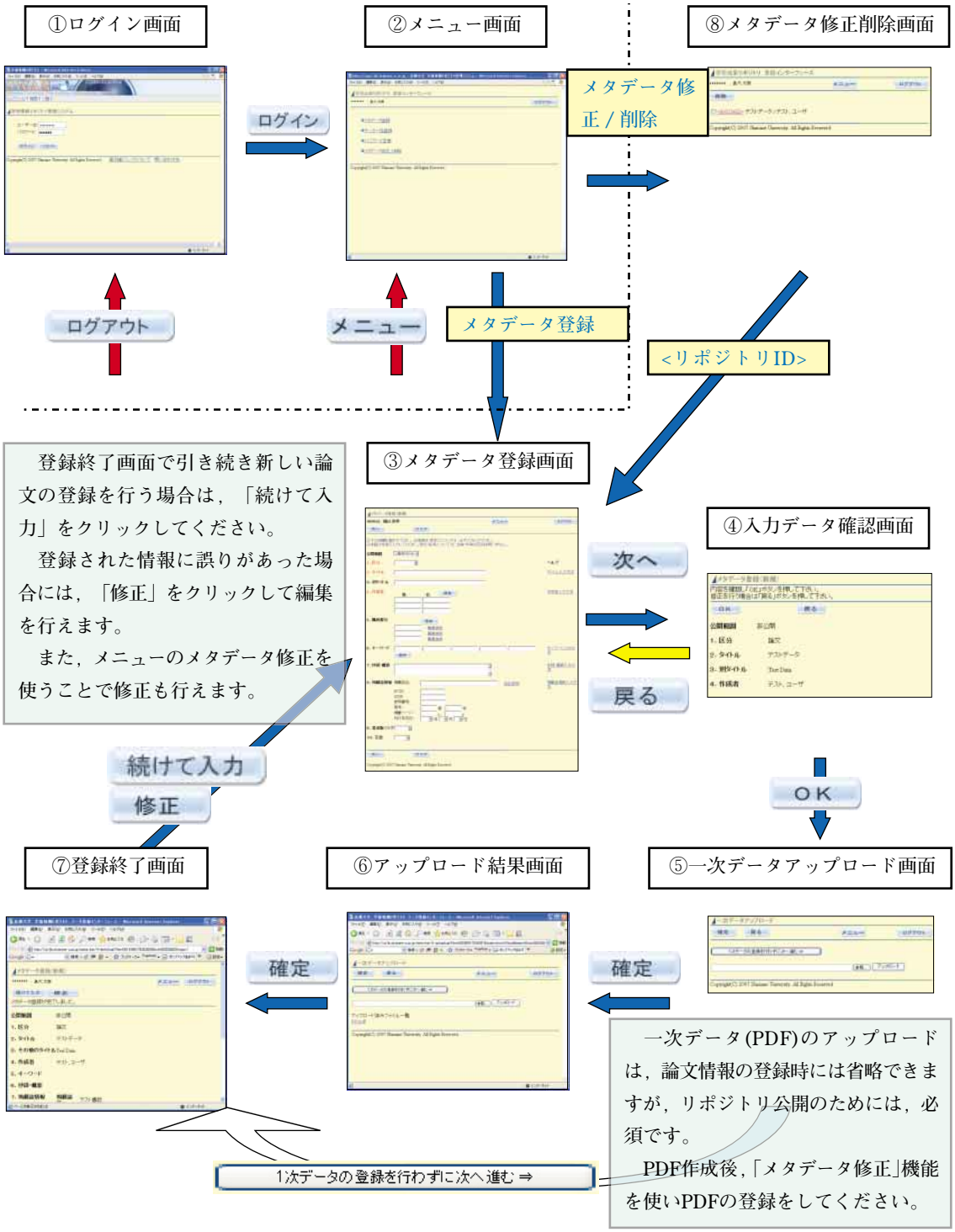


図 6　SWAN の登録の流れ

(2) 登録の注意点

Point 1　著者最終稿をご準備ください

欧米の出版社や学協会の94%が，著者が所属する機関の学術機関リポジトリへ投稿された論文の登録を認めているとは言え，そのほとんどが著者版の論文原稿であり，出版社版と呼ばれる版面のレイアウトがなされたものは認められないケースがほとんどです。査読を経た最終的な原稿（著者最終稿）(図7参照)をお手元に保管するようにしてください。

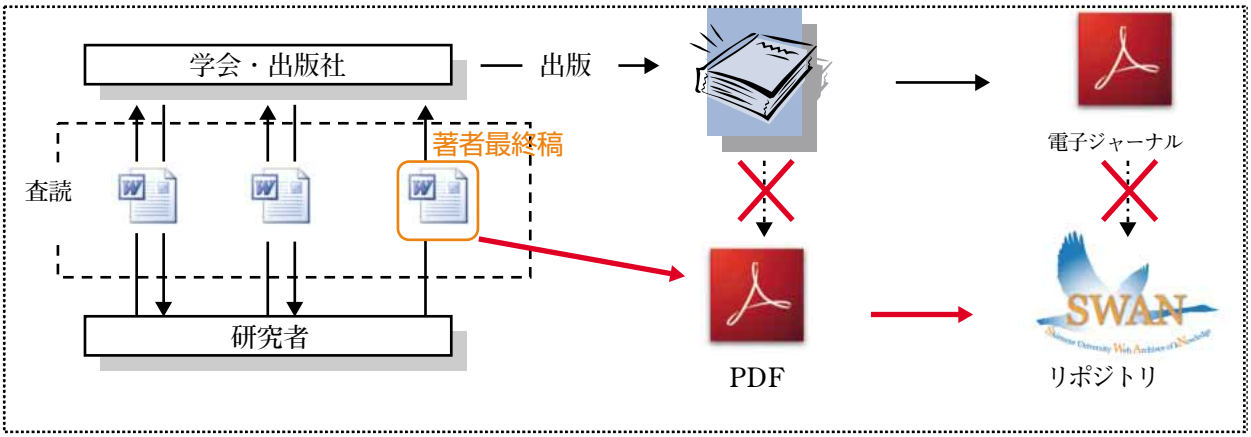


図7　著者最終稿

Point 2　学内共著論文の場合

共著者と協議の上，1人の方がSWANに登録してください。共著者それぞれが同じ成果物をリポジトリに登録すると，教員情報入力画面のリポジトリ参照で，1つの筈の成果物が複数存在してしまうことになり，共著者間で同一のデータを共有することが困難になります。また，同じデータを二重に登録する無駄が生じてしまいます。

また，登録者の方は，必ず共著者の職員番号も入力してください。職員番号が入力されないと，教員情報入力画面のリポジトリ参照に該当データが表示されません。そのために，登録者以外の共著者が，新たに同一の成果物を登録してしまうことがあります。

Point 3　職員番号の入力をお忘れなく

SWANは学内の著者については，著者名の統一的な形を管理しています(著者名典拠機能)。登録時に職員参照により職員番号を入力すると，SWANで著者名を入れて検索した際に，登録された先生方の業績リストを漏れなく表示させることが可能です。著者名の漢字，ローマ字，略字のいずれも検索語として使うことができます。

5　Q & Aから

更に詳しい内容は，SWANホームページのFAQよりご覧ください。

http://www.lib.shimane-u.ac.jp/0/collection/repo/index.asp?mode=faq

Question 1 出版社の許諾はどうするのですか？（権利）

誌名参照（3 SWANの特徴　Point3）によって確認できるジャーナル毎の許諾情報でグリーンとブルー以外の場合には，登録時に希望された公開範囲に応じて，図書館で出版社許諾の確認を行います。確認先が不明の場合には著者の協力をお願いします。著者本人による申請が必要な場合にも，図書館からお知らせします。現在，欧米の出版社・学協会の約94%が，著者のWebサイトや所属機関のリポジトリへの登録を認めています（IEEE, Elsevier, American Institute of Physics, etc.）。国内の出版社や学協会も，照会によって許諾を得られる場合が多く，これまでに関西言語学会，電気・情報関連学会，電子情報通信学会，東洋史研究会，石油技術協会から新たにSWANへの掲載許諾を頂きました。

Question 2 登録した論文が公開されるまでにはどのくらいかかりますか？

登録していただいた論文は，図書館で公開可否の再確認を行った上で公開します。出版社･学協会の方針がはっきりしていないケースでは，

版元に問合せを行います。この場合，早い場合は数日とかかりませんが，国内学会などでは方針が未確定のところが多く，学会の理事会の決定を経なければならない場合など半年くらいかかることもあります。また，出版社によっては，公開の条件として公開時期を指定することもあり，雑誌の出版から6ヶ月後でないと公開できないといった場合もあります。

6　SWAN が目指すもの

最後に,SWANが目指すゴールをご紹介してこの記事を閉じたいと思います。

(1) 島根大学の研究成果物を網羅した電子書庫

SWANは，島根大学で生産されるあらゆる研究成果物を搭載した“電子書庫”を目指します。この電子書庫は，研究者にとっての個人アーカイブであると同時に，島根大学の学術資産の永続的なアーカイブとして，国内外に向けて島根大学の研究成果情報を発信するものです。

(2) 遺跡情報と貴重資料コレクションへの展開

島根県は古代出雲文化圏として埋蔵文化財の宝庫といわれていますが，これら文化遺産の貴重な調査記録である報告書の全文電子化とリポジトリシステムによる発信プロジェクト“遺跡資料リポジトリ”について，現在，島根県や県下の市町村との連携事業として準備を進めています。並行的に中国地区の国立大学と協力しながら，中国５県におけるリポジトリシステムの広域展開の可能性についても検討を進めています。

また，本学が所蔵する豊富な貴重資料コレクションのデジタルアーカイブをリポジトリで発信することで，同種コレクションの全国レベルでの横断検索と利用サービスなどについても検討しています。これらはSWANを，特定テーマを対象とした主題リポジトリとコレクションリポジトリへ機能の拡張を行おうとする試みです。

注

1)いくつかの調査によると，Web上で無料で公開された論文（オープンアクセス論文）は，そうでない論文（非オープンアクセス論文）と比較して，被引用率が増大することが報告されている。
Stevan　Harnad, Tim Brody. Comparing the impact of open access (OA) vs. non-OA articles in the same journals. D-Lib Magazine. vol. 10, no. 6, 2004.6.
http://www.dlib.org/dlib/june04/harnad/06harnad.html (accessed 2007.9.18)
Antelman, Kristin. Do open access articles have a greater research impact?. College & Research Libraries News. vol. 65, no. 5, pp. 372-382.

2)島根大学学術情報リポジトリ運用指針. 2006.11.
http://www.lib.shimane-u.ac.jp/menu.asp?mode=l&id=1115（accessed 2007.9.18）

3)SHERPA/ROMEO
http://www.sherpa.ac.uk/romeo.php
(accessed 2007.9.18)

4)オープンアクセスジャパンに，日本人類学会など最近の日本の学協会の学術機関リポジトリへの対応についての記事が掲載されている。
「日本」の学協会による機関リポジトリへの対応が散見されるように. 2007.9.5
http://www.openaccessjapan.com/2007/09/post-104.html（accessed 2007.9.18）

5)国内の機関リポジトリ一覧（国立情報学研究所）
http://www.nii.ac.jp/irp/info/list.html
(accessed 2007.9.18)

参考文献

1)高木和子. 世界に広がる機関レポジトリ : 現状と諸問題. 情報管理. Vol. 47, no. 12, 2005.3, p. 806-817

2)栗山正光. 特集　学術情報リポジトリ : 総論　学術情報リポジトリ. 情報の科学と技術. Vol. 55, no. 10, 2005.10, p.413-420

3)時実象一. 特集　学術情報リポジトリ : オープンアクセス運動の歴史と電子論文リポジトリ. 情報の科学と技術. Vol. 55, no. 10, 2005.10, p. 421-427

4)逸村裕. 日本における機関リポジトリの展開 : 学術情報流通と蓄積の変容. カレントアウェアネス. No. 291, 2007.3, 12-15

特集２　電子ジャーナル

島根大学の電子ジャーナル

－学術情報基盤整備計画から利用システムまで－

図書館専門員　　加本　純夫

はじめに

大学における教育研究活動に不可欠な学術情報基盤（コンピュータ，ネットワーク，学術図書・学術雑誌等）については，近年の情報化社会の流れの中でますます高度化・多様化しており，教育研究様態にも著しい変容を生じさせています。学術資料のうちでも特に外国雑誌については電子ジャーナル化が急速に進行し，利用・契約形態も含めて大きな変化が起こっています。外国雑誌については，従来から，所謂，シリアルズ・クライシス(Serials Crisis)と呼ばれる価格高騰による購読タイトル数が減少し続けるという危機的状況が続いていました。1998年から1999年にかけて大手出版社の電子ジャーナルをパッケージにしたトライアルや一括販売（Big Deal）が提案され，IDEAL(Academic Press)，Science Direct(Elsevier)，JSTOR(Mellon Foundation)などが各大学で試行的に導入されました。

2002（平成14）年には文部科学省から電子ジャーナル導入経費が配分され，国立大学図書館協議会の電子ジャーナルコンソーシアム形成の影響もあり，Elsevier社のLife Science分野のパッケージを中心に急速に電子ジャーナル導入の流れが加速していきました。大手出版社の再編・統合による寡占化とともに電子ジャーナルパッケージも大規模化し，全国の殆どの国立大学では，Elsevier, Blackwell, Wiley, Springer, Oxford University Pressなどのパッケージを中心にした購読内容になっています。これにより，現在では各大学とも冊子体時代の約５～６倍の外国雑誌タイトルを，また，バックファイルを含む数百万件の論文をキャンパス内から直接利用できる環境を手にいれています。

１　学術情報基盤整備計画と電子ジャーナル，データベース

（１）電子ジャーナルの導入経緯

島根大学における電子ジャーナルは，松江キャンパスにおいて，1997（平成９）年にEBSCO社のAcademic Abstract, Business Source Plus, Humanities Source, Social Science Sourceなど約600誌をCD-ROMサーバーから学内へ試験提供したのが導入の始まりです。

その後，インターネットや学内LANの高速化により外部サイトを直接利用できるようになり，本格的な電子ジャーナル導入は2001-2003（平成13-15）年にかけての第一期学術情報基盤整備計画（重点化経費／３年計画）により，Academic Press, Elsevier Science, Blackwell, Cambridge University Press, Oxford University Press, Springer, Wiley, JSTOR, ProQuest: Academic Research Libraryなど5,900誌の電子ジャーナルやCurrent Contentsなどのデータベースの整備を行いました。この時期のモデルは冊子体購読継続（維持確約）を条件に一定の電子ジャーナル利用料を追加することで，出版社の全タイトルにアクセスできる形態でした。

出雲キャンパスでは2002（平成14）年４月から，文部科学省の電子ジャーナル推進費等によりElsevier Science，Springer，Wiley, Blackwell, ProQuest : Medical Library, Oxford University Pressなど医学系雑誌を中心に約2,000誌が導入されました。

2003（平成15）年10月の大学統合による両大学の講読雑誌再編を経て，2004-2005（平成

16-17)年の第二期学術情報基盤整備計画では，Elsevier, Blackwell, Springer, Wiley, Kluwer, Cambridge, ProQuest:ML, ARL, Gale, JSTORなど両キャンパスで共通性の高い分野の電子ジャーナルパッケージを中心に，12系列約7,500タイトルの電子ジャーナルが整備されています。

	2003年 (H.15)	2004年 (H.16)	2005年 (H.17)	2006年 (H.18)	2007年 (H.19)	2008年(予定) (H.20)
印刷体雑誌数	1,213	1,121	650	520	410	370
電子ジャーナル数	7,600	7,460	7,560	7,770	7,800	7,200

表１　島根大学の印刷体外国雑誌と電子ジャーナル数の遷移

（２）第三期学術情報基盤整備計画 (2008-2009〈平成 19-21〉年)

緊縮財政の中で，電子ジャーナル化後も依然として値上がりが続く外国雑誌の購読規模維持の方策について検討するため，附属図書館の中に「電子ジャーナル等整備検討専門委員会」を設置しました。委員会では，購読維持，共通経費化，利用統計，出版社の価格設定・契約形態の改善，国立大学図書館協会電子ジャーナルコンソーシアムの動向，また，中国四国地区国立大学の購読状況調査等を勘案しながら,2007(平成19)年度を含む今後の３年間,2009(平成21)年度までについて，見直しを図りつつ整備計画案を策定しました。

島根大学は法文学部，教育学部，医学部，総合理工学部,生物資源科学部の５学部を擁しており，人文・社会科学系，生命科学系，理工学系および生物科学系など多様な分野を網羅したバランスのとれたコレクション整備が要求されています。第三期計画では予算上の制約もあり，利用が最も多い主要出版社のパッケージ11系列を選定し，また，最新の学術情報が迅速に収集できる網羅的な引用文献データベースや電子ジャーナルの利用を促進するアクセスツール類の整備・充実を図ることになりました。共通経費と部局経費率の変更（共通経費80%, 部局経費20%）や雑誌値上げにかかる財源を，冊子体雑誌の中止やデータベース経費等の見直し等によって措置することを内容とする第三期基盤整備計画（2008-2009〈平成19-21〉年）が７月の予算会議及び役員会で了承されています。

【電子ジャーナルの利点】

・キャンパス内のパソコンから24時間いつでも同時利用が可能**（サイトライセンス）**
・データベース検索からリンク機能によるスムーズなフルテキスト論文の利用**（リンク機能）**
・最新号及び出版前情報，バックファイルなどを含む広範囲の閲覧が可能**（速報性，網羅性）**
・異なる分野の雑誌を同時に検索できるなど多様な検索機能と連動した利用が可能**（学際領域，横断的利用）**
・サイトライセンスにより複数キャンパスから誰でも利用が可能**（共有性／教員，院生，学生）**
・パッケージ契約により従来の非購読誌についても利用が可能**（タイトル規模の拡大）**
・参照，引用関係を辿り，関連論文をその場で閲覧することが容易**（引用情報の導入）**など

（３）電子ジャーナル利用システム

大学の教育研究活動に必要な学術情報は，従来の印刷体の雑誌情報に加えて電子ジャーナルや多様な電子コンテンツなど，世界中の出版社，ベンダー，大学・研究機関からインターネットを通じて絶えず配信されています。大学・研究機関等ではこれらの学術情報資源を効果的に取り込んで活用できるシステムを予め用意しておく必要があります。附属図書館では研究活動に必要な高品質な学術情報を選定，評価，利活用するための大規模引用文献データベースの整備やインターネット上の学術情報資源を一元的，効率的に利用するための電子ジャーナル(学術論文)利用システム，即ちＥＲＭＳ(Electric Resource Management System)の導入・構築にも取り組んでいます。

島根大学の電子ジャーナルは，学術情報基盤整備によるパッケージの他，附属図書館，各学部，講座・研究室で購読中の専門分野パッケージや個別タイトルを含めると7,200誌以上になります。これは中国四国地区国立大学の中，広島大学，岡山大学に次いで第３位のタイトル規模である一方，契約総価格は最低水準を維持しています。

表２　第三期学術情報基盤整備計画による電子ジャーナル，データベース一覧

no.	パッケージ名	出版社名	収録数	特徴
1	ScienceDirect	Elsevier	1,800	エルゼビア提供の電子ジャーナルサービス。エルゼビアグループ(Elsevier,North-Holland,Academic, Pergamon, Harcourt General等)が発行する約1,800タイトルの科学・技術・医学・社会科学分野をカバーしている。フルテキスト数は、バックファイルも含め790万件以上
2	Springer LINK	Springer	1,200	Springer-Verlag及びグループが発行する電子ジャーナル約1,200タイトルが利用可能。本学では各タイトルの創刊号から利用できる。Kluwer社のジャーナル600誌を2005年から吸収
3	Synergy	Blackwell	753	Blackwell社発行の人文社会科学系（HSS)、理工医学系(STM)のコレクション約800タイトルが利用できる。
4	Inter-Science	Wiley	330	John Wiley & Sons 社刊行の科学技術・医学等専門分野の電子ジャーナルを利用できる。
5	Cambridge Online Package	Cambridge U. P.	154	Cambridge University Press刊行の人文科学、社会科学、自然科学等幅広い分野の電子ジャーナル約130タイトルが利用できる。（一時中止）
6	Oxford Online Package	Oxford U. P.	170	Oxford University Press刊行の人文科学、社会科学、自然科学等幅広い分野の電子ジャーナル約160タイトルが創刊号から利用できる。
7	Nature & Research誌	Nature Group	11	Nature本誌（1987年以降）のフルテキストが利用できる。本学では姉妹誌8誌も利用できる。
8	Science	MacMillan	1	雑誌「Science」の電子ジャーナル。過去10年分が利用できる
9	ProNAS	NASUSA	1	「Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America」の電子ジャーナル
10	JSTOR : Arts, General Sci.	Mellon Found.	200	The Andrew W. Mellon財団が提供する雑誌の電子アーカイブサービス。創刊号からのバックナンバーを収録。最新号は含まれない。
11	Academic Research Library Medical Library	ProQuest	2,000	ProQuest社を通じて提供されるアグリゲータ系電子ジャーナルパッケージサービス。人文社会学・医学系約2,000誌を収録
12	Scopus ※	Elsevier	15,000	世界15,000誌以上の雑誌に収録された学術論文を収録する2次情報データベース。ほぼ全分野を網羅する基本ツールである。参考文献へのリンク、引用論文へのリンク、共通の参考文献を持つ論文の検索機能を備えている。
13	Swetswise ※	Swets	14,000	広範囲な分野にわたる学術情報雑誌の最新目次情報を収録したデータベース。契約電子ジャーナルやフリージャーナル管理機能や論文アクセス支援機能（リンクリゾルバー），検索結果データをそのまま文献複写へ転写できる機能などを保持
14	Search Solver ※	Ovid		インターネット上の多様なリソース（有料，フリー電子ジャーナル／一次，二次情報），サーチエンジンなどを包括的，選択的，横断的に高速検索できるデータベース

※印は，データベース，アクセスツール類で，膨大な学術論文やインターネット上の学術情報コンテンツを多様な角度から検索・収集し，迅速に利用者に提供するために必須のものとなっています。

（４）電子ジャーナルの利用実績

本学の学術情報基盤整備で導入を行った電子ジャーナルの利用実績は，年を追う毎に利用が伸びています。2006（平成18）年度の利用実績は約14万件で，2004（平成16）年に比較して倍増しており，電子ジャーナルは教育研究活動に定着しています。契約価格をダウンロード数で割った利用単価についても１件あたり約430円程度に下がり，外部機関へ依頼する文献複写（ILL）と比較してもコストパフォーマンスや利便性にも優れています。財政状況が厳しく地理的にも情報量でも不利な地方大学にとって，キャンパス内で世界レベルのデータベースや学術論文が自由に利用できる学術情報基盤の整備は，若手研究者や大学院生・学生の教育研究活動に不可欠な要件と言えます。

（５）電子ジャーナルの今後

外国雑誌の恒常的な価格上昇という現象は，従来の“冊子体＝タイトル単位”から“電子版＝パッケージ単位”に移行したことで，価格や収録タイトル規模が大きくなり，数%の値上げ幅でも数百万円の経費措置が必要となります。パッケージ１系列の購読中止で数百タイトルの雑誌が利用できなくなるという，より大きな影響力を残した状態で“シリアルズ・クライシス”は続いています。また，大手出版社のパッケージに含まれない個別タイトルの購読中止も進行しています。今後，電子ジャーナル（外国雑誌）の更なる価格上昇が続いた場合，財政逼迫下の大学・研究機関の現場から直接利用できる学術論文が消失するという事態も想定されます。全国の国立大学ではコンソーシアムによる契約条件の改善や非購読誌の文献複写体制の整備など多様な方策を検討中です。リポジトリシステムにより出版社主導の市場戦略から，大学及び研究者による論文の無料公開と相互利用を目的としたオープンアクセスも進行中で，ミシガン大学のOAIsterでは約1000万件以上の論文が提供されています。

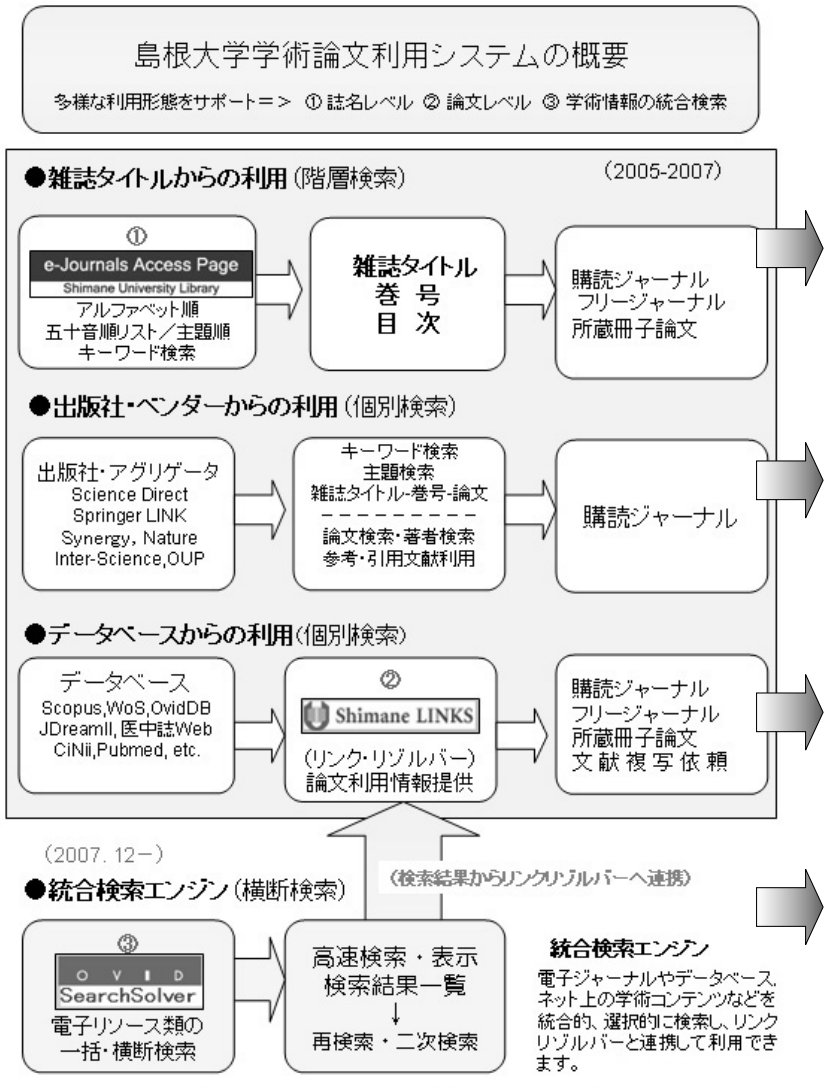
2　電子ジャーナル（学術論文）利用システム

附属図書館が提供する“学術論文利用システム”では，本学で利用できる雑誌論文について，全文が利用できる範囲やメディア種別，雑誌情報の構造（誌名，抄録，論文）に対応した検索など，学術情報への多様なアクセスがきるよう，データベースとアクセス・ツール類を組み合わせた利用環境を提供しています。本学から利用できない論文については，データベースの検索結果を利用して学外への文献複写依頼が正確かつ迅速にできます。

学術論文利用システムは，役割毎に以下の３つのアクセス・ツールを組み合わせて，附属図書館ホームページの電子ジャーナルやWebデータベースから利用できます。

（１）e-Journals Access Page ‥‥‥ 誌名から収録論文を利用(巻ー号ー目次ー抄録ー本文)
（２）Shimane LINKS ‥‥‥‥‥‥ データベースなどの論文検索結果から本文へナビゲート
（３）統合検索システム ‥‥‥‥‥‥ 複数の情報源を統合的・横断的に高速検索・結果表示
全文リンク，Shimane LINKS，個別システムへ移動等

図１　学術論文利用システム



学術論文利用システムでは，検索システムの一元化，アクセス情報の集約，再構成により，効率的に目的論文の入手を目指しています。

①“e-Journal Access Page”では，契約・無料電子ジャーナルをアルファベット順，五十音順，主題順に再構成してリスト化し，利用可能な範囲の情報を提示しています。

・出版社の検索システムでは，詳細検索やアラート，リモートアクセスなど個別機能が利用できます。

②“Shimane LINKS”では，デジタルデータの特性を生かした論文単位の検索と各種リンクにより効率的な利用支援を実現しています。

③“統合検索”では，複数の情報源を高速・横断的な検索により，網羅的かつ効率的な論文利用ができます。

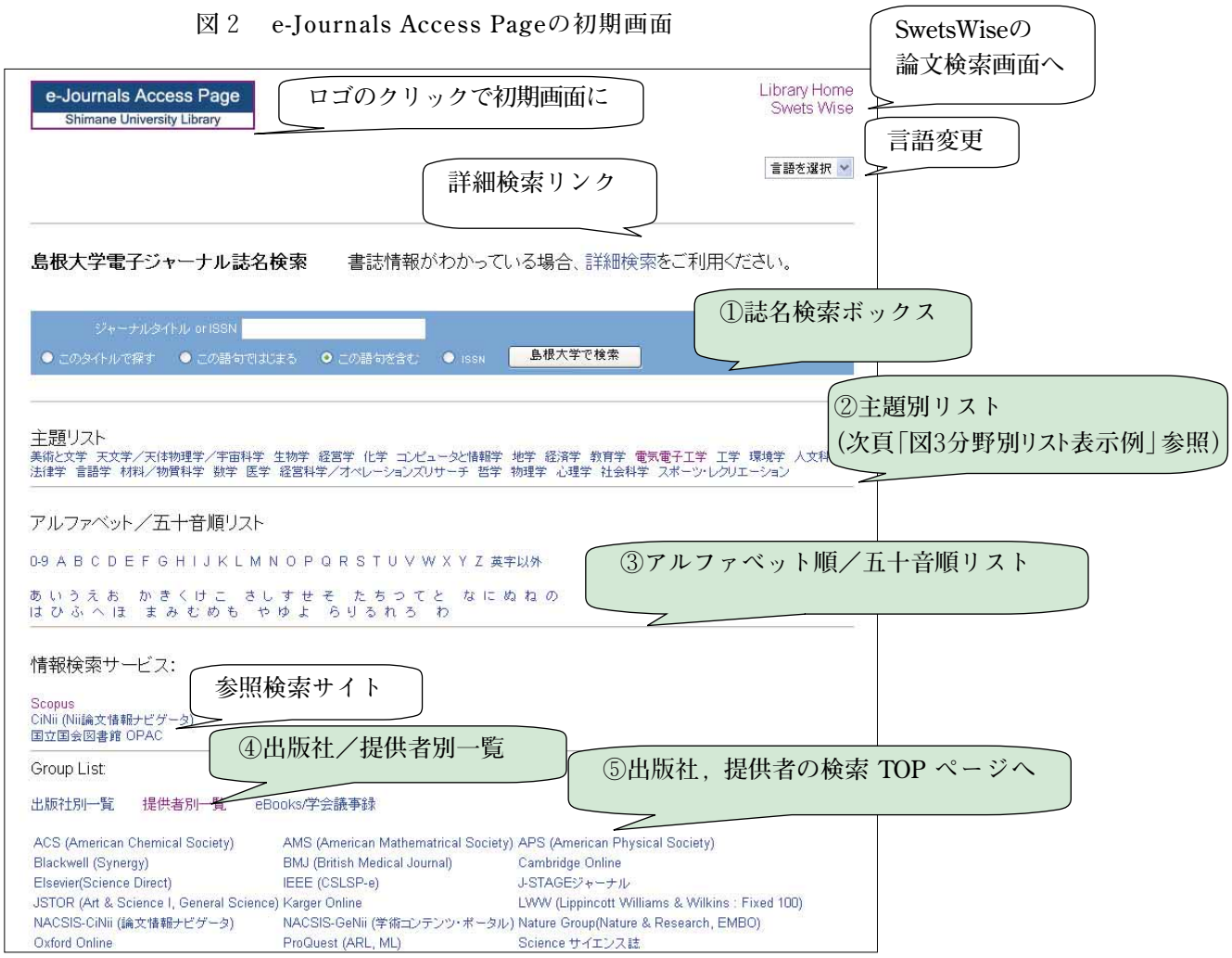
（1）　e-Journals Access Page

“e-Journals Access Page”は，島根大学のキャンパスから利用できる電子ジャーナル（誌名）について冊子目録を閲覧するイメージでリスト化し，簡単なクリック操作で本文まで閲覧できる機能を提供しています。

ホームページから利用できる各種リストのほか，誌名キーワードによる検索，雑誌出版社や提供ベンダーサイトへのリンクも設定しています。

①誌名検索ボックス（完全一致，前方一致，中間一致，ISSN），詳細誌名検索
②主題別リスト（LC 分類による雑誌主題分類リスト，二次区分あり）
③アルファベット順リスト（外国雑誌），五十音順リスト（国内雑誌）
④出版社別・提供者別一覧（出版社別電子ジャーナルリスト）
⑤出版社・提供者サイトリンク（出版社別電子ジャーナル検索ページ）

図 2　e-Journals Access Pageの初期画面



島根大学では教育研究，学習活動に不可欠な学術情報を利用活用するために必要な知識，能力の修得をサポートするための「学術情報リテラシー」テキストを発行しました。当該テキストは附属図書館，総合情報処理センター，教育開発センター等に備え付けています。
「学術情報リテラシー　情報活用能力の向上のために」島根大学学術情報リテラシー編集委員会編，B5判, 144頁，2008 年 3 月 発行

図３　分野別リスト表示例

・主題細区分リスト表示

・リストのタイトル下部に提供系列と全文利用が可能な範囲を表示

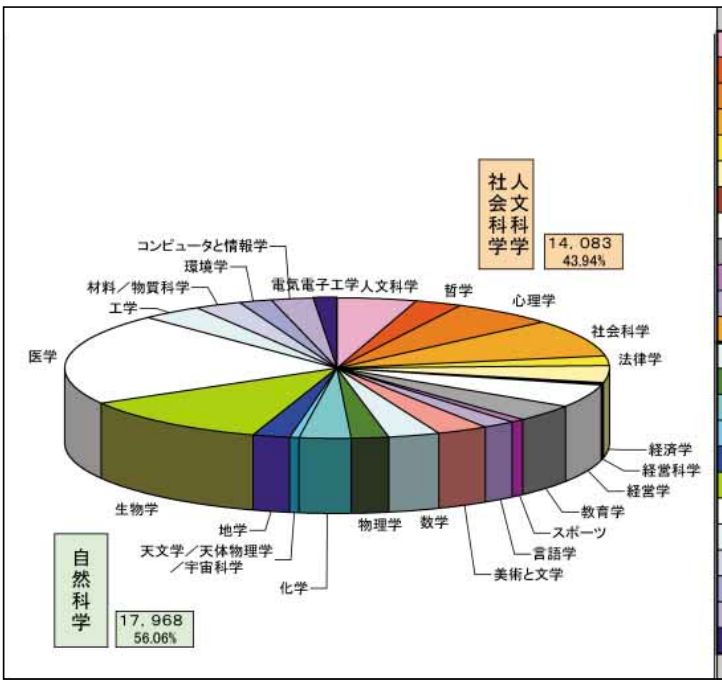
・“ジャーナルTop”のクリックにより当該雑誌のページに移行「巻ー号ー目次ー抄録ー本文」の順にHTML, PDF ファイル等にアクセス

・データ末尾の“＊Free”表示はフリージャーナルにつき若干の遅延収録

・本学に冊子体があれば所蔵範囲が表示され，クリックによりOPACの書誌・所在情報へ移行

・全文表示の際に ID, Password が要求される場合は，非購入タイトルか契約外の巻号

図４　“e-Journal Access Page”収録誌分析
（総数32,051誌／純タイトル 13,108 誌, 2007年12 月現在）



	分野(Subject)	Titles	比率	計	
	人文科学	1,541	4.81%		人文・社会科学系
	哲学	823	2.57%		
	心理学	1,962	6.12%		
	社会科学	2,819	8.80%		
	法律学	655	2.04%		
	経済学	1,319	4.12%		
	経営科学	102	0.32%		
	経営学	1,709	5.33%		
	教育学	1,255	3.92%		
	スポーツ	260	0.81%		
	言語学	647	2.02%	14,083	
	美術と文学	991	3.09%	43.94%	
	数学	997	3.11%		自然科学系
	物理学	714	2.23%		
	化学	972	3.03%		
	天文学／天体物理学／宇宙科学	160	0.50%		
	地学	678	2.12%		
	生物学	3,799	11.85%		
	医学	6,741	21.03%		
	工学	1,171	3.65%		
	材料／物質科学	850	2.65%		
	環境学	675	2.11%		
	コンピュータと情報学	800	2.50%	17,968	
	電気電子工学	411	1.28%	56.06%	
	Total	32,051	100%	100%	

※“e-Journal Access Page”では,国立情報学研究所の CiNii, 科学技術情報機構(JST)の J-STAGE, Journal@rchiveや医中誌Webなど,国内の学協会誌,紀要タイトル等を豊富に取り込んでいるため,国内文献のフルテキスト利用にも役立ちます。

（２）Shimane ＬＩＮＫＳ

“Shimane LINKS”は,文献データベースの検索結果にアイコンとして表示され，その後の本文利用のためのナビゲーション機能を提供します。リンクリゾルバーと呼ばれるこの機能は，電子ジャーナル論文へのダイレクトリンクや所蔵状況の確認（OPAC検索），学内で入手できない場合は文献複写依頼画面へデータを転写するなど，論文情報表示画面（リゾルバーの中間窓）を起点に論文利用までナビゲートする画期的なシステムです。データベースの検索結果リストに“Shimane LINKS”のアイコンを設定していますので，これをクリックすることでナビゲーションを行う中間窓に移行します。

Shimane LINKSが利用できるデータベースは以下のとおりです。

Scopus, Web of Science, Current Contents Connect, SwetsWise, Agricola, CINAHL, EBMR, PsycINFO, MLA, Google Scholar, CiNii, JDream II, 医中誌 WEB, PubMed　ほか

図５　Shimane LINKS画面（リンクリゾルバーの中間窓ーナビゲーション画面）

文献複写依頼へデータ流用　　リポジトリ（SWAN）へデータ流用

（3）統合検索システム

統合検索システムは，インターネット上の電子リソース（データベース，電子ジャーナル，リポジトリ・コンテンツ，各種OPACや検索エンジン等）を一度の検索で統合的・横断的に利用できます。ある領域の学術論文の網羅的な調査や学際領域的なテーマでの検索時に，関連リソース群をターゲットにした横断検索ができます。GoogleやYahoo等の検索エンジンとの違いは，契約リソースとフリーの情報の混在検索や，学術情報に特化した検索が挙げられます。更にShimane LINKS（リンクリゾルバー）と連携させることで，本文入手までのスムーズなナビゲーションを行います。項目指定によるキーワード入力，発行年，資料種別の限定や，検索前に情報源や範囲を指定することでノイズの少ない的確な結果を得ることができます。

図６　統合検索システム初期画面

統合検索の情報源を種別によりグループ化／クリック操作で検索対象を指定／現在，50の電子リソースを登録済

■文献データベース
和洋の二次文献データベースを集めたグループ

■電子ジャーナル（購読）
契約電子ジャーナルを集めたグループで大量のフルテキストが利用可能

■電子ジャーナル（無料）
国内外のフリー・ジャーナルサイト。米国のOAIsterは1000万件の論文を提供

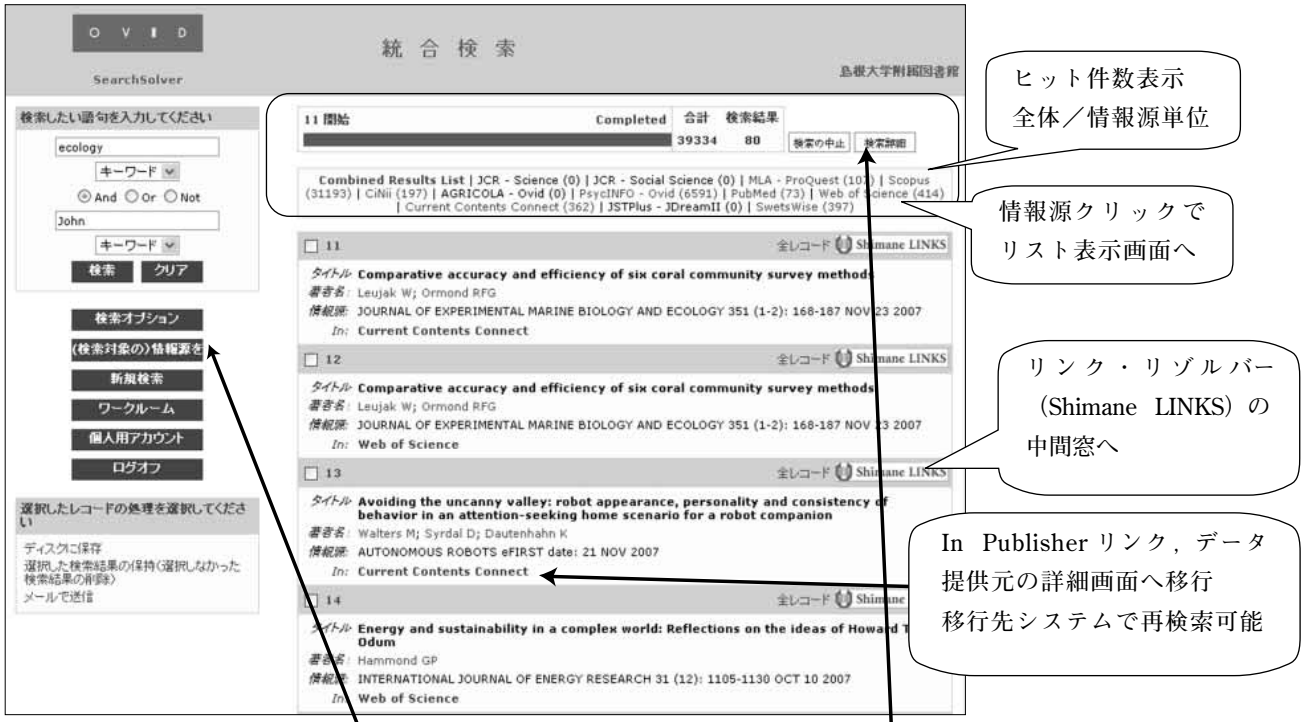
■医学コンテンツ
医学，薬学，看護学系和洋グループ。医学系情報は左側の文献データベースや電子ジャーナルにも多数存在

■本を探すには
国内外の図書資料の検索サイト。島根大学OPACも同時検索が可能

■日本語資料いろいろ
日本語資料のみ集めたサイト
図書・雑誌論文混在

※島根大学の統合検索エンジンは，米国 Ovid Technology 社の“SearchSolver”を使用しています。

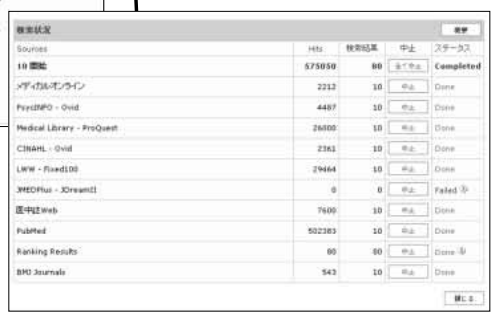
図７　統合検索結果から各種ナビゲーションへ



検索オプション画面

＜オプション項目＞
- 情報源毎の結果表示件数
- 検索経過表示
- ソート順選択
- 言語，資料タイプ限定
- 出版年限定

検索詳細画面



＜検索状況の確認＞
- Done （検索完了）
- Not Started （検索対象無し）
- Failed 検索失敗

●統合検索システムの主な機能
- キーワードによる複数リソースの一括検索と一覧表示機能
- 原文献利用のためのリンク利用（リンクリゾルバー）機能
- 各検索システムへ移行後，詳細検索を行う“In Publisher”機能
- データダウンロード，メール送信などのデータ保存機能

●統合検索の注意点
- 簡単なキーワードでは非常に多くの文献がヒットします。複数キーワードの入力，著書名，分野指定による絞り込みが有効です。
- J DreamII（JSTPlus，JMEDPlus）ではヒット件数が２万件を超えるとリストが正しく表示されない場合がありますので，予め件数を絞り込んだ検索が必要です。

注）附属図書館ホームページや e-Journal Access Page，Shimane LINKS，統合検索画面は，今後とも，機能追加や操作性向上のため継続的に画面表示，機能やデザイン等の変更を予定しています。

EVENT & NEWS

●本館

■掲示板設置

本館１階ホールに掲示板を新設しました。これまではまとまった掲示場所がなく，十分な広報ができていませんでした。重要なお知らせについては図書館ホームページのほか掲示でもお知らせしていますので，入退館の際には目を留めてみてください。

■ 利用案内発行

３月末に本館利用案内を発行しました。Ａ３四つ折りのコンパクトな中に，図書館の利用方法，館内案内，ホームページ上からの情報検索サービスなどを収めています。英語版もあります。カウンターに置いていますので利用してください。

■ 不用雑誌の無料提供会

７月４日～６日の３日間，本館１階ホールで不用雑誌の無料提供会を開催しました。週刊誌や趣味の雑誌を中心に，25タイトル，約1,000冊を用意しましたが，人気のある雑誌は１時間ほどですべてなくなってしまったものもあるほど大好評で，全体の約３分の２にあたる雑誌をもう１度利用してもらうことができました。今後も継続したいと考えています。

■ 学推会から図書の寄附

今年も島根大学学生生活推進会（学推会）から，学生用図書１１２冊を寄附していただきました。厚く御礼申し上げます。学生さん自身に選書していただいたものですので，大いに利用してください。本の背に「学生選書」の赤いシールが貼ってあります。

■ 選書ツアー

７月６日に学生選書ツアーを実施しました。松江キャンパスの学生４名が参加し，読みたい本，図書館に置いてほしい本，お薦めの本などを市内の書店で選びました。昨年まではツアーに参加しておしまいでしたが，今年は選定作業にも参加してもらいました。 詳細は，今号の「学生選書」(P.8) をご覧ください。

■ 図書館所蔵の雑誌調査実施中

９月から年末にかけて，本館内の雑誌の一斉調査を実施しています。雑誌は，OPACで検索しても現物がなかったり，置き場所がわかりづらいなど利用に支障がありました。調査にあわせ，OPAC上の表示，書架の見出し等を改善し，置かれている場所がすぐわかるよう利用環境を整備する予定です。

■ マイクロフィルムリーダーが新しくなりました

２階マイクロリーダー室に，新しいマイクロフィルムリーダー１台が入りました。従来の機器とあわせて，２台使えるようになりましたので同時に２人使用可能です。どうぞご利用ください。

■文献複写物の引き渡し時間を延長しました

私費文献複写物が，開館時間中はいつでも受け取れるようになりました。第２カウンターでお渡ししています。料金はおつりのいらないようにお願いします。

■現物貸借（他館からの図書借用）サービスの変更について

申込方法	Web申込	文献複写の申込画面で「現物貸借」を選んでください。他の入力方法は文献複写と同じです。
利用対象者	教員・学生等の学内者	１回生から申込できるようにサービスを拡大しました。卒論用資料限定もはずしました。
申し込み冊数	１人３冊まで	
経費	公費・私費	送料は，往復です。
借用資料の貸出・返却	第２カウンター（９時―17時）	私費の場合，おつりのいらないようご協力ください。
借用期間	通常３週間	借用館により，期間に長短があります。

※ほぼ，文献複写と同様の形式となりました。

■メールアドレスの登録が便利です

文献複写や現物貸借の到着や内容照会のお知らせにメールが活躍しています。図書館の側からも早くて便利ですので，是非メールアドレスの登録をお願いします。尚，ill@lib.shimane-u.ac.jpが，迷惑メールに入り，見逃される例がありました。設定等，ご注意下さい。

■デジタル・アーカイブ閲覧システムを公開

古文書や絵図などの貴重資料の高精細画像データを閲覧するためのデジタル・アーカイブ閲覧システムを公開しました。法文学部を中心として，附属図書館や学外機関が連携して開発を進めたもので，図書館本館のエントランスホールに常設しています。今後，授業での活用や学内外への公開窓口として威力を発揮することが期待されます。

●医学分館

■メディカルオンライン(医学系和文電子ジャーナル)を導入しました

昨年２月から無料トライアルを実施していた医学系和文電子ジャーナルパッケージ「メディカルオンライン」が４月より正式導入されました。国内の学会誌・商業誌約550誌に掲載された医学・歯学・看護系文献が利用できます。雑誌名，論文名で検索ができるほか，医中誌Webの検索結果からダイレクトにPDFファイルを表示できます。また，ファックスで文献を受け取ることもできます。

■卒業生からの図書寄附

平成18年度医学科・看護学科卒業生から卒業記念として22冊の図書の寄附がありました。３月22日（木）の平成18年度学位授与式の後に行われた祝賀会で,医学科・看護学科の卒業生代表から，北垣分館運営委員へ目録が贈呈されました。

■図書館棟耐震・改修工事が完了しました

昨年８月から12月20日までの間，図書館棟の耐震・改修工事が行われました。工事内容は，１，２階部分への耐震壁の設置，身障者の方への対応（スロープ，エレベーター，トイレの新設），階段，トイレ，３階視聴覚室，自由閲覧室等の改修です。また，閉館時特別利用（24時間利用）時の認証方式が従来のカード方式から生体認証方式に変わりました。

■医史学講演会・展示会の開催について

医学部学園祭「くえびこ祭」にあわせ，講演会と展示会を開催しました。

講演会：「江戸時代の医者と，病人ー現代の目で見て」
日時：平成19年10月13日（土）16：15ー17：15
講師：酒井シヅ先生（順天堂大学医学部客員教授）
会場：医学部看護学科N11講義室

展示会：「江戸時代後期、郷土で活躍した医師ー大森不明堂三楽・西山砂保ー」
日時：平成19年10月12日（金）ー14日（日）10：00ー18：00
会場：医学部看護学科N101演習室

■検索講習会を開催しました

講習会名	開催月	対象者	参加者	内容
授業「原書講読」	４月（９回）	看護学科３年生	69	CINAHL，PubMed
授業「看護研究の基礎」	５月（２回）	看護学科２年生	65	医中誌Web，メディカルオンライン，OPAC，文献の入手法

島根大学附属図書館報「淞雲」　第８号
平成２０年１月発行

発　　行　島根大学附属図書館
本　　館　〒690-8504　松江市西川津町 1060
TEL（0852）32-6083　FAX　32-6089
医学分館　〒693-8501　出雲市塩冶町 89-1
TEL（0853）20-2092　FAX　20-2095